

平成26年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT26146

【プログラム名】石器を使って縄文クッキーを作ろう



開催日：平成26年12月6日(土)

実施機関：名古屋大学(名古屋大学博物館
(実施場所) 館野外観察園セミナーハウス)

実施代表者：新美 倫子
(所属・職名) (名古屋大学博物館・准教授)

受講生：小学生13名、中学生3名

関連 URL：

【実施内容】

研究成果の分かりやすい伝達・自主的活動を促す工夫：

実習前の解説においては、研究結果が明らかになったプロセスを身近に感じてもらうために、プロジェクトによる画像や各参加者への配布物に加えて、考古資料の現物(貝塚から出土した獣骨)を使用した。

また、実習参加者の多くは小学生であったため、無理なく作業が行えるように、小ぶりの石器を使用した。

さらに、実習中に参加者から出されるさまざまな疑問に答えるため、参加者4～5人に対して考古学専攻の大学生・大学院生2人がつき、対応した。

当日のスケジュールと実施の様子：

12:30 受付(名古屋大学博物館野外観察園 集合)

13:00 趣旨説明、科研費の説明

13:15 オリエンテーション

縄文時代の食料・石器についての解説

13:40 縄文クッキー製作作業

15:30 縄文クッキー試食・ディスカッション

16:00 修了式(アンケート・未来博士号授与)の後、
解散



石器でクリをつぶし粉にする



材料を混ぜてこねる



クッキーを茹でる



試食し、味の薄さに驚く

事務局との協力体制:

研究協力部研究支援課外部資金掛が振興会への連絡調整等を行った。

また、研究支援課博物館掛(当博物館の事務部)が委託費の管理および広報活動、受講生募集、保険加入などの事業を実施代表者と協力して行った。

広報活動:

実施代表者が主導してポスターとチラシを作成した。また、当博物館の事務部が主体となり、博物館ホームページならびに中日新聞等の催し物案内に本事業を掲載し、広く周知した。

安全配慮:

参加者4~5名に対して2名のスタッフを配置し、実習一石器でクリをつぶして粉を作る作業やガスコンロで湯を沸かしてクッキーを茹でる作業などにおいて安全を図った。

また、ケガが生じた場合に備えて、参加者全員がレクリエーション保険に加入した。

結果的にはケガや事故は生じなかった。

今後の発展性と課題:

本企画では「石器や土器などの出土遺物は博物館の展示物ではなく、生きた道具であったこと、さらに道具の使い方などにもさまざまな工夫や経験が活かされていること」を参加者に伝えるのが目的のひとつであった。

これらは「実習」を通じてこそ、参加者に感じてもらえるものである。このように石器を使って何かを作成する実習は、身近な材料で実施することができ、対象物を変えることで他にもさまざまなバリエーションが可能である。

今後も次世代の子供たちに実習を通じて考古学の楽しさを伝えていきたい。

【実施分担者】

【実施協力者】 8名

【事務担当者】

前川 宏司

研究協力部研究支援課外部資金掛長